

# 吉本ばなの作品における精神の静的な回復

## 吉本ばなの作品における精神の静的な回復

The Static Recovery in Yoshimoto Banana's Works

文学研究 / 論文

デザインコース

福井 歩優

Fukui Fuyu

### 研究目的

吉本ばなの『ハゴロモ』、『デッドエンドの思い出』、『ムーンライト・シャドウ』を取り上げ、主人公の回復の過程について論じた。その過程が、「静的」であることに着目し、作中の事物や登場人物、現象など、複数の観点から静的な回復についてその意義や理由を分析した。

### 方法

吉本ばなの作品について、主に三つの要素を挙げ、それぞれの作品に見られる要素について考察と分析を行なった。一つ目の要素としては「象徴的なモノ・コト」を取り上げ、生方智子の研究を参考に作品の中の「移行対象」や「中間領域」について論じた。二つ目の要素としては「主人公とその他の登場人物など」を取り上げ、主人公自身について、または主人公とその回復に関連する人物について論じた。三つ目の要素としては第2章を除いて「超常現象」を取り上げ、作品に描かれる「超常現象」が主人公の回復にどのような意味を持つのかについて論じた。各章で取り上げたこれらの要素を元に、作品で描かれる「静的な回復」について分析・考察を行った。

### 結論

吉本ばなの作品で描かれる回復は、先行研究などを通して日常の中で行われると言及されていたが、主人公の日常の中のありとあらゆる事物、現象、交流などが回復に関連していることが分かった。事物や現象、交流には、傷ついた主人公を肯定するといった役割も存在する。また、回復のための主人公たちの環境などは、主人公たち自身によって選ばれており、自身の回復のために動くという自身への肯定が含まれる。主人公にとって、自身の精神やその回復に関わる、あるいは自身への肯定を表す日常の中のものに触れられる、日常生活を送ることが彼女たちにとっての「静的な精神の回復」なのである。